

## 国際学術フォーラム「日本語研究の将来展望」 (2009年10月10日～12日開催)プログラム

雑誌名	国語研プロジェクトレビュー
号	1
ページ	3-3
発行年	2010-05
URL	<a href="http://doi.org/10.15084/00000552">http://doi.org/10.15084/00000552</a>

国立国語研究所では、2009年10月に国内および海外から日本語学・言語学研究のフロンティアランナーを迎え、2つの基調講演と4つのシンポジウム（「音声研究の将来」、「変異研究の将来」、「史的研究の将来」、「文法研究の将来」）からなる学術フォーラムを開催しました。

『国語研プロジェクトレビュー』創刊号では、この国際学術フォーラムの基調講演の内容をご紹介します。

人間文化研究機構 国立国語研究所 国際学術フォーラム 「日本語研究の将来展望」 FUTURE PERSPECTIVES ON JAPANESE LINGUISTICS	
<会場>	国立国語研究所（東京都立川市緑町10-2）
<基調講演>	日時：2009年10月10日（土）14：00～16：40 影山太郎 「複合語のタイポロジーと日本語の特質」 Bernard Comrie “Japanese and the Other Languages of the World”
<シンポジウム>	
○シンポジウム1	<b>「音声研究の将来」</b> 日時：2009年10月11日（日）10：00～12：30 窪菌 晴夫 「外来語から見た日本語の音韻構造」 ティモシー・J・バンス 「連濁について」 前川 喜久雄 「韻律アノテーションを施したコーパスによる自発音声の研究」 上野 善道 「アクセント史研究」
○シンポジウム2	<b>「変異研究の将来」</b> 日時：2009年10月11日（日）14：00～17：20 木部 暢子 「方言アクセントの形成」 大西 拓一郎 「人的交流と方言分布の形成」 かりまた しげひさ 「方言文法の記述研究－消滅と変容をまえにして－」 真田 信治 「異言語接触による言語変種の形成過程」 相澤 正夫 「外国語と外来語のあいだ－変異の生れるところ－」 横山 詔一 「文字環境論と共通語化研究」
○シンポジウム3	<b>「史的研究の将来」</b> 日時：2009年10月12日（月・祝）10：00～12：50 近藤 泰弘 「日本語史研究とコーパス」 金水 敏 「歴史語用論の可能性」 鈴木 泰 「古代日本語の形態論」 ジョン・ホイットマン 「日本語の内部再構築の試み－連体形語尾の原形と日本祖語における名詞化の範囲」 Bjarke Frellesvig “Some Prospects for the Study of the History of Japanese” （日本語史研究の展望）
○シンポジウム4	<b>「文法研究の将来」</b> 日時：2009年10月12日（月・祝）14：00～16：50 井上 優 「テンスの有無と言語のデザイン」 益岡 隆志 「文論の現状と課題」 影山 太郎 「動詞意味論から名詞意味論へ」 ザトラウスキー ポリー 「談話分析の可能性」 角田 太作 「日本語学から一般言語学への貢献」